

1 提出書類の様式

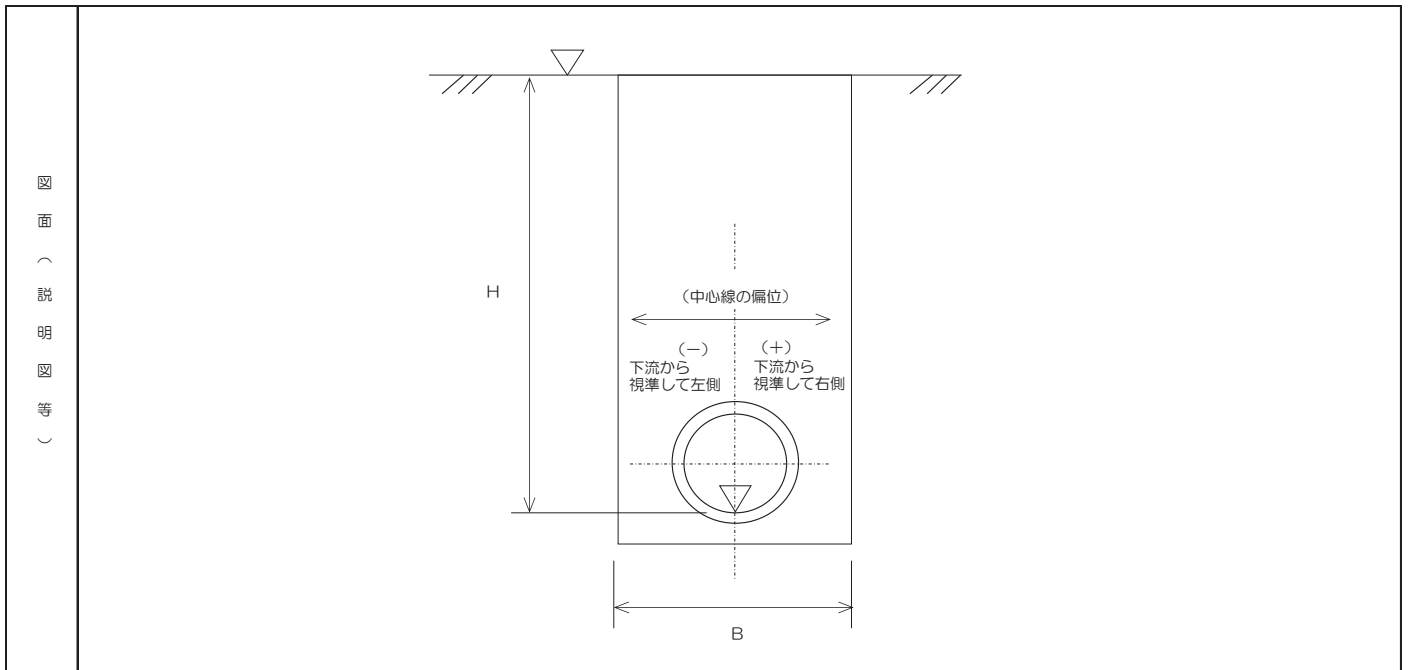
提出書類の様式一覧表

章	節	提出書類名	提出部数	様式
2	1	出来高測定報告書(開削管布設)例	1	様式 2-1
		出来高測定報告書(集水ます)例	1	様式 2-2
		出来高測定報告書(簡易集水ます)例	1	様式 2-3
	2	大阪市型マンホール蓋購入数量確認書	3	様式 2-4
		出来高測定報告書(マンホール・会所築造工)例	1	様式 2-5

出来形測定報告書

現場代理人	主任技術者 (監理技術者)	出来形管理担当

工 種	管底基準高さ
-----	--------



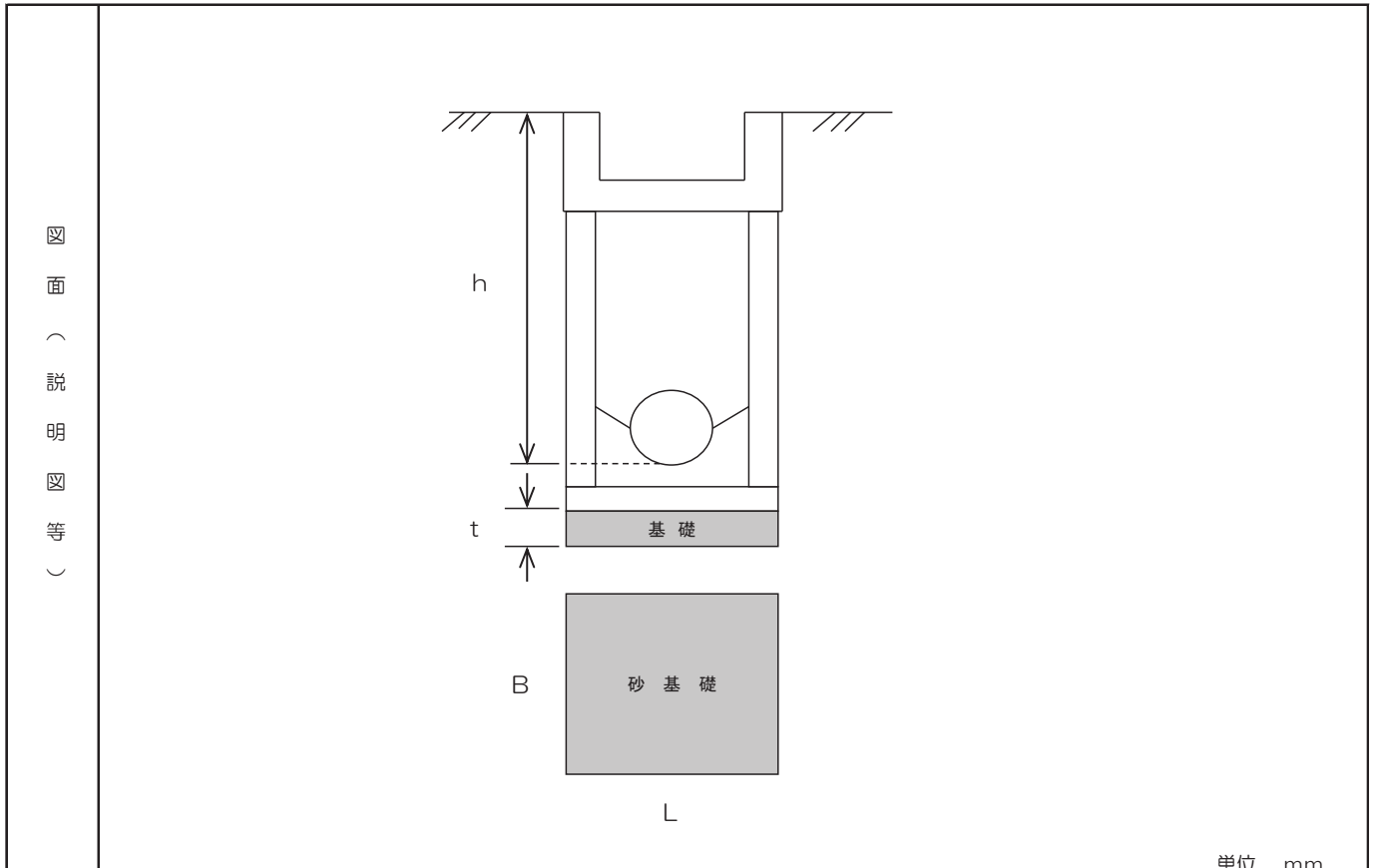
測定 月日	号 線	管 径 (mm)	管 種	設 計 勾 配	測 点	(水準) 基準高さ (H)			中心線の偏位 (水平方向)	監 督 員 確 認 日	備 考 欄	
						規格値 (±30mm)			規格値 (±30mm)			
						設 計 (m)	出 来 形 (m)	誤 差 (mm)	偏 位 量 (mm)			
1月1日	城東 第112号線	400	硬質塩化ビニル管	1/500	1	既設3種MH管口	-1.287	-1.285	2	+1		
1月1日					2	No.1MH+20m	-1.283	-1.284	-1	+31		打合せ記録書①による。
1月1日					3	No.1MH+31m	-1.281	-1.283	-2	+23		埋設物の平面近接 (Eマンホール)
1月1日					4	城東111号線 No.1MH管口	-1.279	-1.250	29	0		
/												
1月2日	城東 第111号線	300	硬質塩化ビニル管	1/300	1	No.1MH管口	-1.280	-1.283	-3	0		
1月2日					2	No.1MH+20m	-1.273	-1.242	31	+5		打合せ記録書①による。
1月2日					3	No.1MH+31m	-1.273	-1.256	17	+3		埋設物の交差近接 (W)
1月2日					4	既設3種MH管口	-1.266	-1.255	11	0		
/												
/												
/												
/												
/												
/												

注) 監督員確認日は、現場立会確認に適用する。
備考欄は、各定規値から外れるものについて原因等を記載する。
各規値を外れた場合は、測点を追加する。

出来形測定報告書

現場代理人	主任技術者 (監理技術者)	出来形管理担当

工 種	ます工（I型ます）
-----	-----------



単位 mm

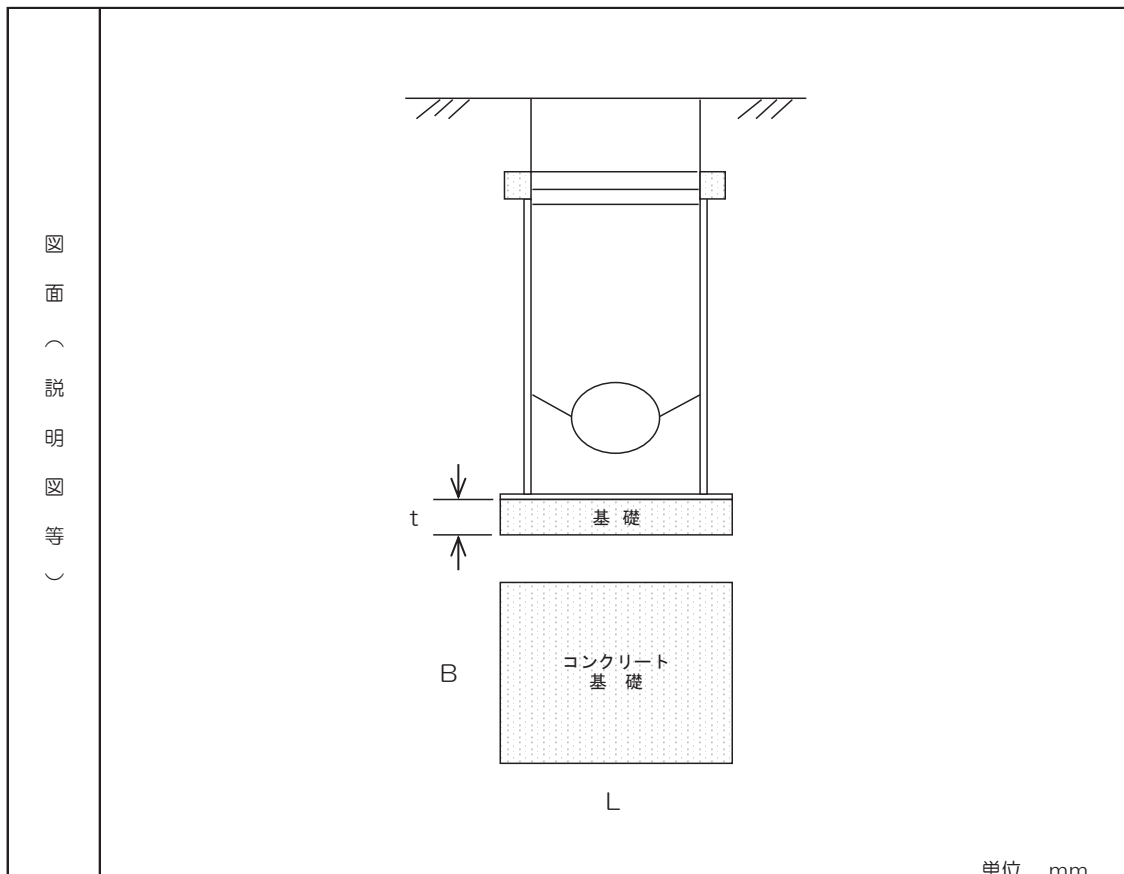
測定 月日	測 点	管口深さ（h）			基礎厚（t）			基礎の平面寸法						監督職員 確認日	備考欄
		規格値（±30mm）			規格値（+30mm）			B			L				
		設計	出来形	誤差	設計	出来形	誤差	設計	出来形	誤差	設計	出来形	誤差		
1月1日	1	750	700	-50	50	50	0	380	385	5	460	460	0		打合せ記録書④による
/															
/															
/															
/															
/															
/															
/															
/															

注) 監督員確認日は、現場立会確認に適用する。（基礎厚及び平面寸法は書類により確認）
備考欄は、各規格値から外れるものについて原因等を記載する。

出来形測定報告書

現場代理人	主任技術者 (監理技術者)	出来形管理担当

工 種	ます工（簡易集水ます）
-----	-------------



単位 mm

測定 月日	測 点	基礎厚（t）			基礎の平面寸法						監督 職員 確認日	備考 欄
		規格値（+30mm）			B			L				
		設計	出来形	誤差	設計	出来形	誤差	設計	出来形	誤差		
1月1日	1	50	50	0	414	420	6	454	460	6		ブロック1段
/												
/												
/												
/												
/												
/												
/												
/												

注） 監督員確認日は、現場立会確認に適用する。（基礎厚及び平面寸法は書類により確認）
備考欄は、ブロックの段数を記載する。

大阪市型マンホール蓋購入数量確認書

平成 年 月 日

受注者記入欄

起工番号（承認番号）					東・西・南・北
工 事 名 称					
工 事 場 所					
工 事 期 間					
受 注 者					
現 場 代 理 人					
マンホール計画数量	種 別	合 流	雨 水	汚 水	
	T-25				
	T-14				
鉄 蓋 納 入 数 量	中間ます				
	T-25				
	T-14				
鉄 蓋 納 入 数 量	中間ます				
購 入 回 数					
備 考					

製造会社確認欄

① 製造会社名					
部署及び担当者名					
受注年月日	平成 年 月 日				
鉄 蓋 納 入 数 量	種 別	合 流	雨 水	汚 水	
	T-25				
	T-14				
鉄 蓋 納 入 数 量	中間ます				
② 製造会社名					
部署及び担当者名					
受注年月日	平成 年 月 日				
鉄 蓋 納 入 数 量	T-25				
	T-14				
	中間ます				

- ①受注者は、必要事項を記入のうえ、2枚複写の2枚目を監督職員に提出しなければならない。
- ②受注者は、鉄蓋注文時及び返納時に本購入確認書及び契約書（施工承認許可書、業者決定書）等のコピーを鉄蓋製造会社に提出しなければならない。
- ③鉄蓋製造会社は、記載内容を確認し、必要事項を記入のうえ、受注者に返却しなければならない。
- ④受注者は、鉄蓋製造会社より本購入確認書を受け取り、監督職員に提出しなければならない。
- ⑤鉄蓋製造会社は、コピーを作成し、保管しておかななければならない。
- ⑥購入後設計変更により使用しなくなった鉄蓋の返却時にはマイナス（△）で表示しなければならない。

現業代理人	主任技術者 (監理技術者)	出来形管理担当

工 種	マンホール・会所築造工
-----	-------------

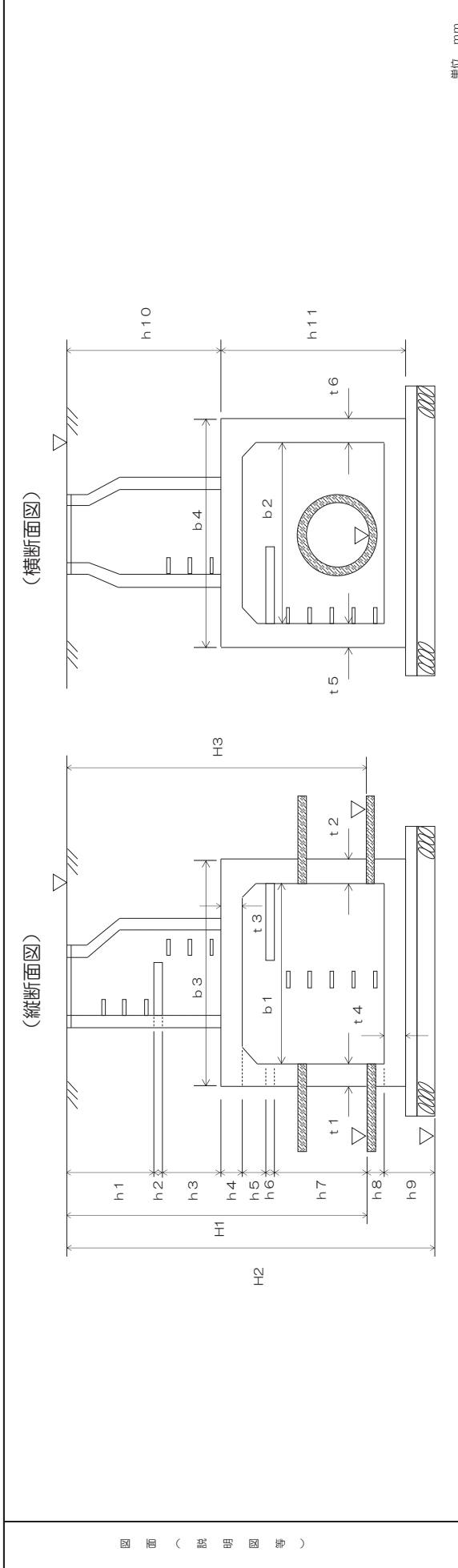


図 面 (説 明 図 等)

測 定 月 日	測 点	(水準) 基準高さ (H)		備 考	測 定 月 日	測 点	高さ (h)		備 考	測 定 月 日	測 点	幅 (b)		備 考	測 定 月 日	測 点	厚さ (t)		備 考	測 定 月 日	測 点	単位 mm	
		設計 (m)	出来形 (m)				設計 (±30mm)	出来形 (mm)				設計 (±30mm)	出来形 (mm)				設計 (±20mm)	出来形 (mm)					
/	H1				/	h1				/	b1				/	t1				/	t1		
/	H2				/	h2				/	b2				/	t2				/	t2		
/	H3				/	h3				/	b3				/	t3				/	t3		
/					/	h4				/	b4				/	t4				/	t4		
/					/	h5				/					/	t5				/	t5		
/					/	h6				/					/	t6				/	t6		
/					/	h7				/					/					/			
/					/	h8				/					/					/			
/					/	h9				/					/					/			
/					/	h10				/					/					/			
/					/	h11				/					/					/			

注) 監理員確認日は、現業立会確認に適用する。
備考欄は、各規格値から外れるものについて原因等を記載する。

2 施工計画書作成要領

1 目 的

この要領は、工事目的物を所定の工期内に、適正、安全、経済的に施工するために必要な施工計画書の作成に関し、必要な事項を定める。

2 施工計画書の作成について

施工計画書は、契約図書の内容及び現場状況を把握したうえで、施工手順及び施工方法・使用する資材・機器及び労務・施工管理上必要となる事項等について、総合的に検討する。

3 施工計画書の編集

- (1) 施工計画書に記載する項目及び内容は、次項に示す「施工計画書作成項目一覧表」による。
- (2) 施工計画書は、日本標準規格紙（A 4判）のサイズとする。
- (3) 添付する図面及び工程表等は、判読できる程度の縮尺とし、A 4判のサイズに合わせて折り込む。
- (4) 記載項目（目次）毎に原則として改頁する。
- (5) 施工計画書は、原則として、一冊に製本する。各種計画書等については、必要に応じて分冊とする。また、内容の変更については、その都度必要分の追加または差し替えを行う。

施工計画書作成項目一覧表

項 目	記 載 内 容	備 考
表紙	○工事名称、受注者名等を記載	書式 1
目次		書式 2
工事概要	○工事設計書の設計概要を記載	書式 3
施工方針	○本工事施工にあたっての会社の施工方針を記載 ○社訓、社是を記載	
職員構成等	○現場代理人、主任技術者（または監理技術者）、専門技術者（いずれも建設業法にもとづく）及び本工事に関する安全管理者を記載 ○工事に係る構成員の職務分担及び職務内容を記載 ○作業主任者等を記載(直接施工時)	書式 4
下請業者構成等	○下請業者の職務分担、所在地及び責任者等を記載 ○作業主任者等を記載	書式 5
主要資材計画 (工事目的物)	○主要資材の購入先及び製作会社名を記載 ○摘要欄へ、資材の品名及び産地等を記載	書式 6
主要機器計画	○主要機器の仕様及び製作会社名を記載 ○摘要欄へ、使用目的等を記載	書式 7
仮設備計画	○仮設建物及び受電等設備の規格、管理方法等を記載 ○設置位置及び構造図を添付	書式 8
本体工事施工計画	○施工手順及び施工手段等を具体的に記載	
産業廃棄物処理計画 及 び 再生資源の利用計画	○産業廃棄物の発生量と分別・保管・運搬・中間処理・最終処分等の方法を記載 ○委託契約・マニフェスト・記録写真等の管理を記載 ○再生資源の利用促進と建設副産物の適正処理方法を記載	
工程管理計画	○工事全体及び工種別の施工順序及び所要日数を明確にした実施工程表を記載 ○工事を所定の工期内に完成させるための具体的管理計画を記載	
安全管理計画	○車両及び歩行者の安全確保、保安施設の設置、関係法令及び道路使用許可条件に対する措置等を記載 ○工事に起因する公衆災害、労働者災害及び物損事故のほか、火災や降雨時における浸水の防止対策を記載	書式 9
品質管理計画	○設計図書で指定する規格、品質を確保するための具体的管理計画、試験等箇所を記載	
出来形管理計画	○設計図書に指定する構造物等の位置、形状、寸法を確保するための具体的管理計画、測定等箇所を記載	
緊急時連絡体制	○緊急時の連絡先、連絡方法、連絡場所等を記載 ○連絡体制図を添付（別紙「緊急時連絡体制」参考）	書式 10 書式 11
事前調査結果	○事前調査の結果を記載	
問題点	○問題点を記載 ○図面及び計算書等を添付	
その他		

工事名称 _____

施 工 計 画 書

受注者



本支店 電 話

責任者

現 場 電 話

現場代理人

施 工 計 画 書

目 次

頁

1	工事概要
2	施工方針
3	職員構成等
4	下請業者構成等
5	主要資材計画（工事目的物）
6	主要機器計画
7	仮設備計画
8	本体工事施工計画
9	産業廃棄物処理計画
10	工程管理計画
11	安全管理計画
12	品質管理計画
13	出来形管理計画
14	緊急時連絡体制
15	事前調査結果
16	問題点
17	その他

1 工事概要

(1) 工事名称

(2) 工事場所

(3) 工事期間

(4) 工事内容

(5) 契約金額

5 主要資材計画（工事目的物）

資 材 名	購入会社名及び製作会社名	摘 要

6 主要機器計画

使用機器名	仕様及び製作会社名	数量	摘要

7 仮設備計画

(1) 仮設建物（事務所、宿舎、倉庫等）の規模、位置等

(2) 器材置場

(3) 仮設電力設備・工事用電力設備

(4) 仮設水道設備

(5) その他（搬入路・仮排水路等）

1 1 安全管理計画

(1) 安全管理組織

(2) 交通安全対策

(3) 災害防止対策

(4) ガス事故防止対策

(5) 酸素欠乏症等危険作業防止対策
酸素欠乏症等危険作業計画書

(6) 防護対策（埋設物・構築物等）

(7) 安全・訓練等の実施計画

(8) その他

酸素欠乏症等危険作業計画書

下記の計画により作業を行います。

工 事 名 称	
酸素欠乏症等 危険作業場所	第1種 第2種
作 業 期 間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
作 業 管 理 体 制	
酸素欠乏症等 危険作業主任者	氏名 修了証番号 第1種 第2種
測 定 器 形 式	酸素濃度計 硫化水素濃度計
換 気 設 備	形 式 台 数
保護具及び安全帯等	
酸素欠乏症等危険作業に おける測定方法及び回数	
備 考	・ 酸素濃度18%以上 ・ 硫化水素濃度10ppm以下

酸素及び硫化水素濃度測定記録

工事名称 _____ 測定日 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日・天候 _____

_____ 測定者 _____

測定箇所 _____ 使用測定計器名 _____ 酸素計 _____ 形 _____
 _____ 硫化水素計 _____ 形 _____
 _____ 酸素・硫化水素計 _____ 形 _____

測定点	時刻	結果		時刻	結果		時刻	結果	
		O ₂ %	H ₂ S ppm		O ₂ %	H ₂ S ppm		O ₂ %	H ₂ S ppm
措置 その他									

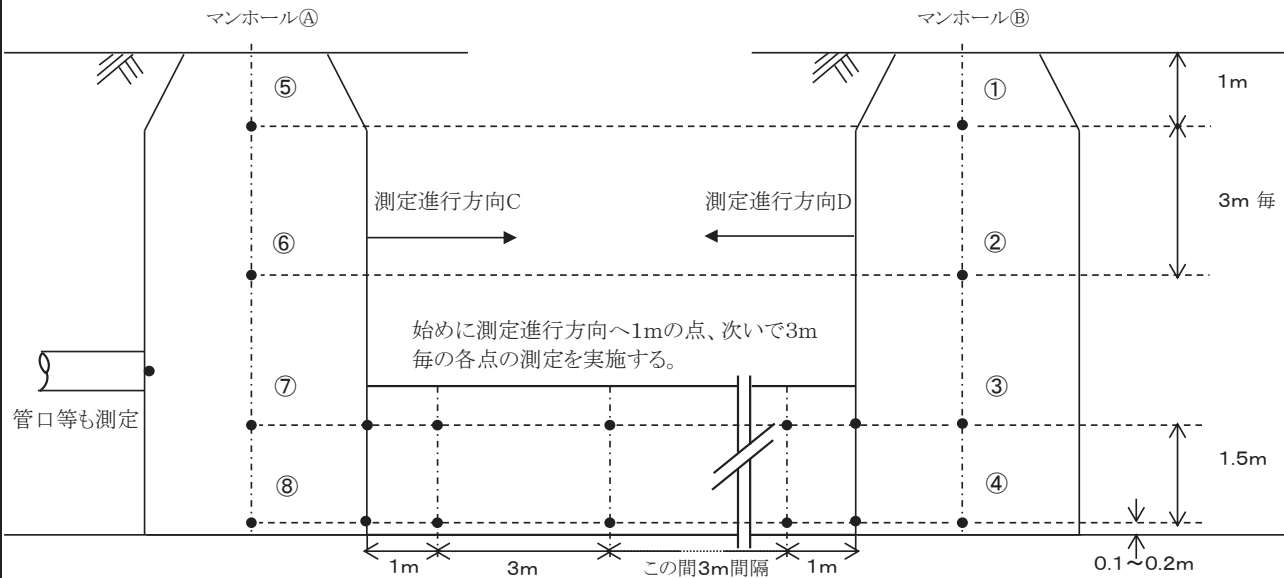
(測定箇所の図)

濃度測定箇所(基準)

測定箇所 □マンホール内 □管渠内 □下水処理場・抽水所 □その他

図-1 マンホール・管渠内測定点(測定箇所に立ち入る場合は、下図の測定点及び濃度の分布状況を知る

ために適切な位置を含め5点以上とする)



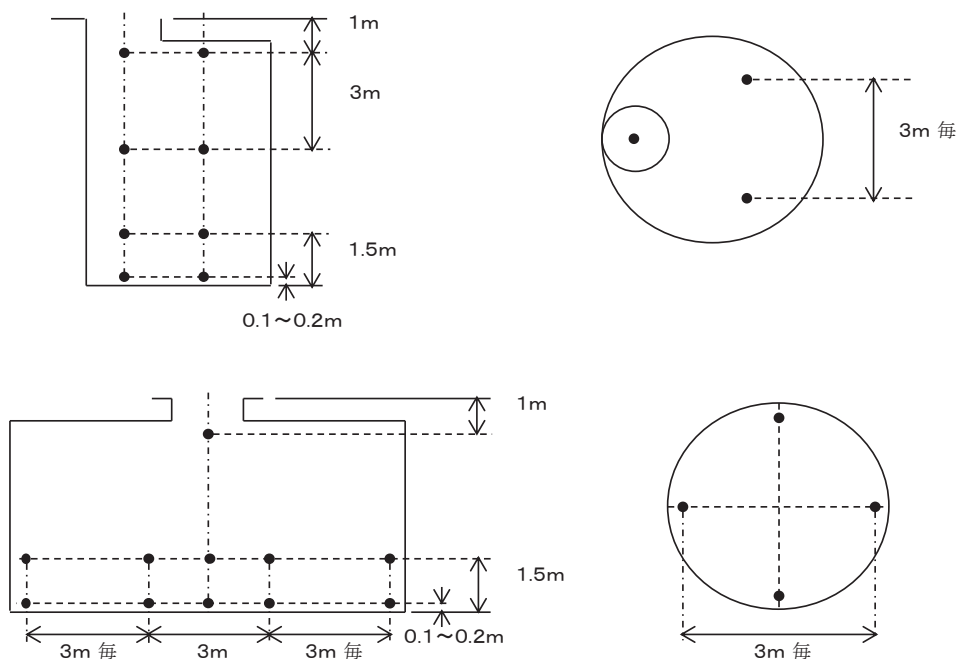
※足もとの測定点
下水の流れがある場合は、水面から0.1m~0.2m

※管渠内へ立ち入る場合の測定順序

測定	測定順序		
進行方向	1	2	3
C方向の場合	②マンホール測定	①マンホール測定	①マンホールより管渠内へ
D方向の場合	①マンホール測定	②マンホール測定	②マンホールより管渠内へ

図-2 タンク等の測定点

垂直方向および水平方向にそれぞれ3点以上の測定を実施する。



1.4 緊急時連絡体制

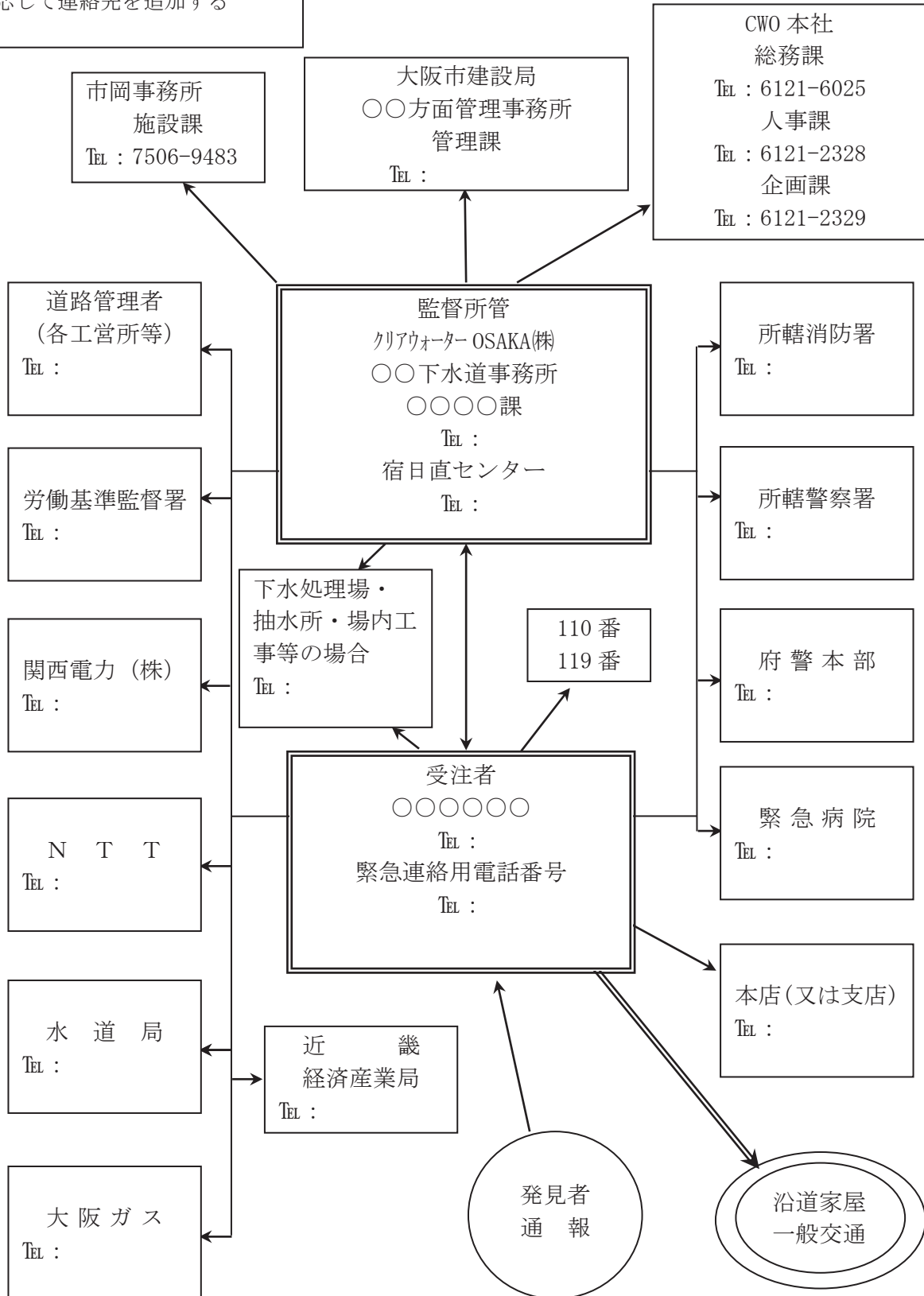
(1) 連絡先

職名	氏名	連絡先		備考
		昼	夜	

(2) 連絡体制

監督職員の指示または必要に応じて連絡先を追加する

緊急時連絡体制表



スピーカー等による広報及び
保安用具による緊急規制

3 工事現場始業点検表

工事現場始業点検表

点検月日		
工事名称		
工事場所		
点検者名	受注者：	現場代理人：

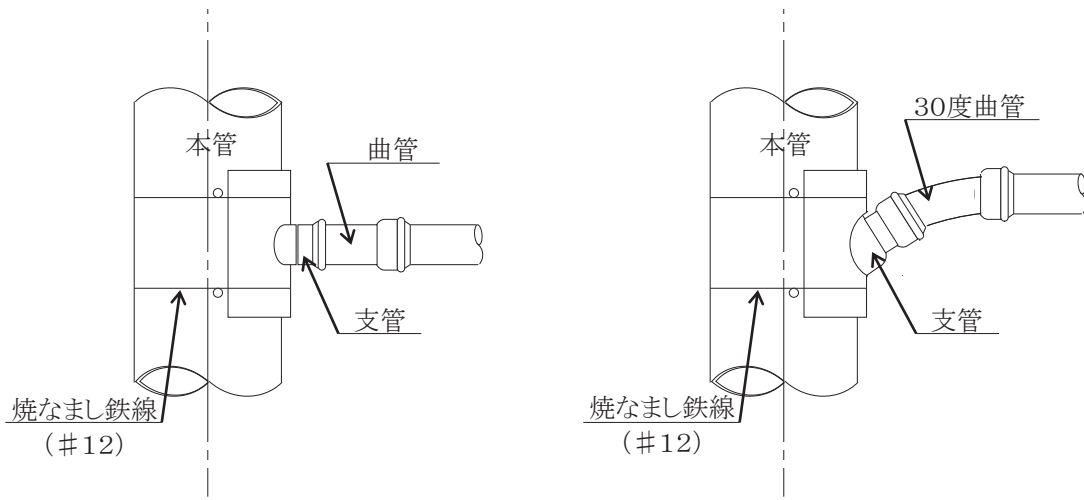
チェックシート

	確認項目	点検欄	
	施工時間帯は守られているか？		
道路使用許可条件は守られているか？	占有形態は処理図通りか？ テーパー長は足りているか？ 占有延長は適切か？ 車道の有効幅員は適切か？ 歩行者通路は確保されているか？ 歩行者通路の有効幅は確保されているか？		
	ガードマンの配置は処理図通りか？ 配置場所は適切か？ 配置人数は適切か？		
	保安施設は処理図通りか？ 工事標示板は正しいか？ 設置場所は適切か？ 記載事項は適切か？ 「下水工事中」となっているか？ 工事区間は？ 許可の期間は？ 許可番号は？ 許可条件は？ ※夜間工事標示板はついているか？		
	標識類は適正か？ 「道路工事中」標識は設置されているか？ 「方向指定」標識は設置されているか？ 「車両通行止」標識は設置されているか？ 設置場所は適切か？		
	保安柵・カラーコーン及びコーンバーは適正か？ 設置場所は適切か？ 設置数量は足りているか？ ※注意灯は設置されているか？ ※回転灯は設置されているか？ ※照明灯は設置されているか？		
	看板類は処理図通りか？ 迂回路標示板は設置されているか？ 設置場所は適切か？ 分かりやすく記載しているか？ 工事予告標示板は設置されているか？ 設置場所は適切か？ 運転手から見やすく設置されているか？		
	道路使用許可証は携行しているか？		
	現場状況は安全か？ 車両の流れは円滑か？通過車両に危険はないか？ 歩行者・自転車に危険はないか？ 作業員に危険はないか？ 施工中の路面に凸凹はないか？		

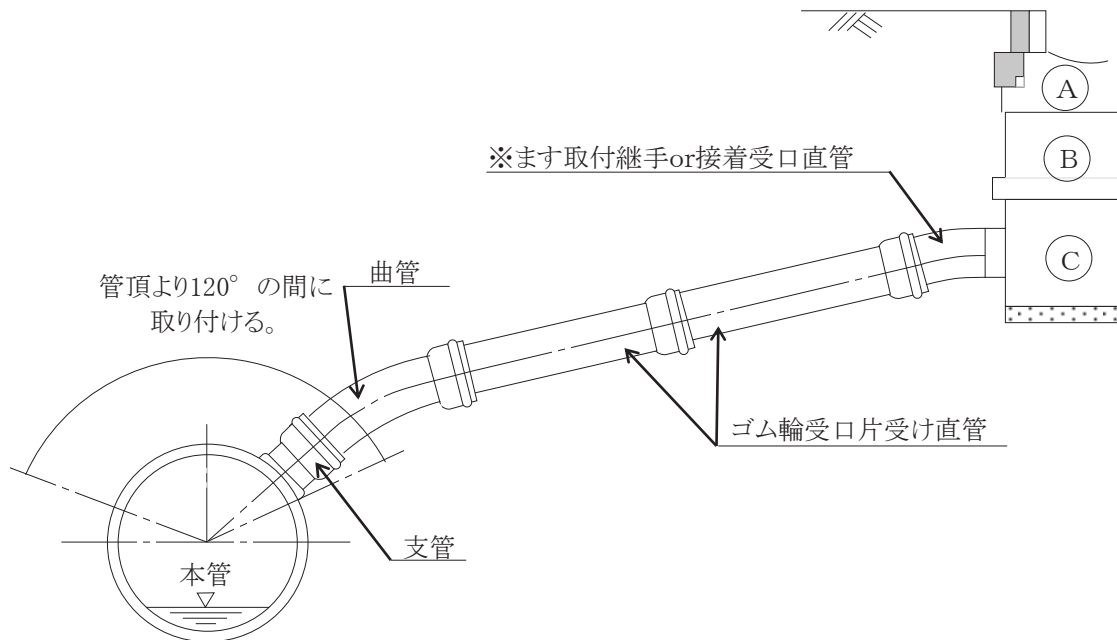
注：※印は夜間工事の場合に記入する。

4 支管取付構造図・取付管工事一般図

支管取付構造図



取付管工事一般図

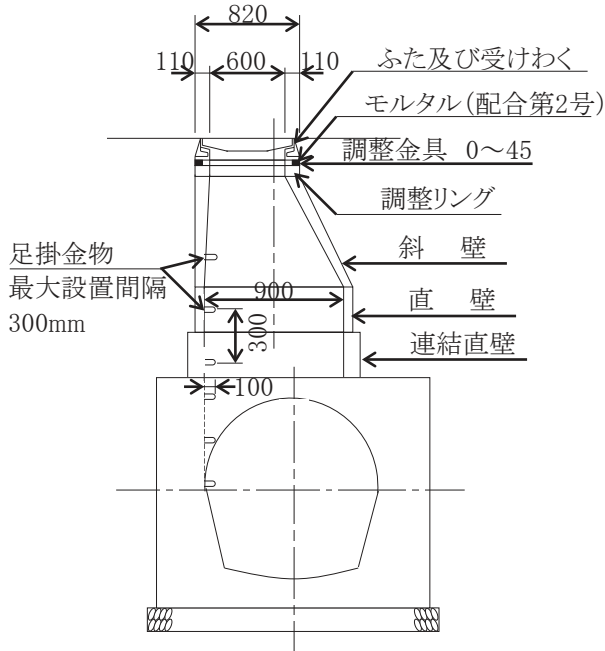


※簡易集水ますに接合する場合は、「接着受口曲管」を使用する。

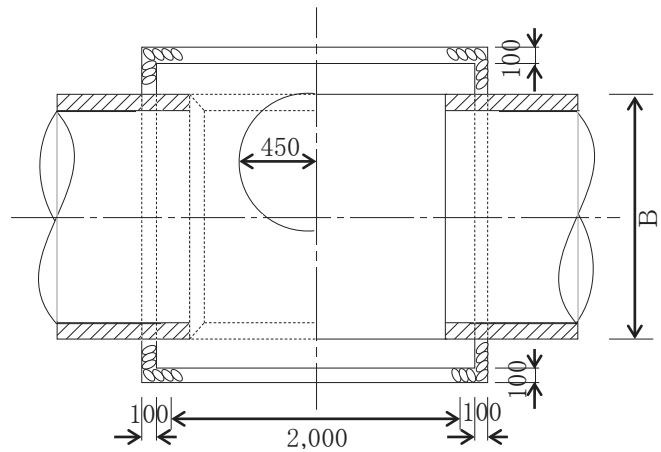
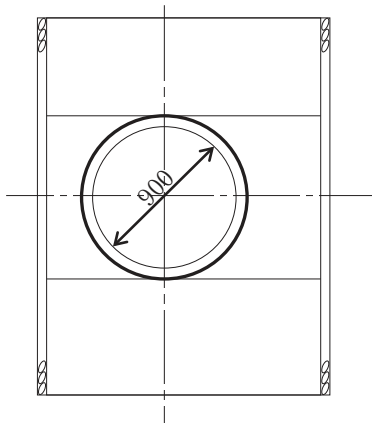
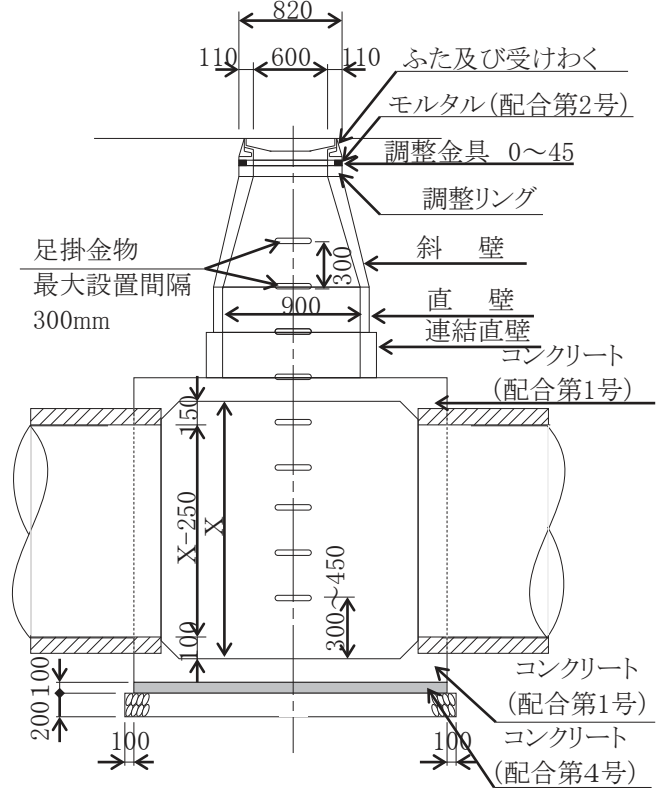
5 マンホール標準図

マンホール標準図（その1）

第一種マンホール
暗渠用



第二種特殊マンホール
D=1,350~1,800



マンホール芯とマンホール蓋芯の偏心量(参考)

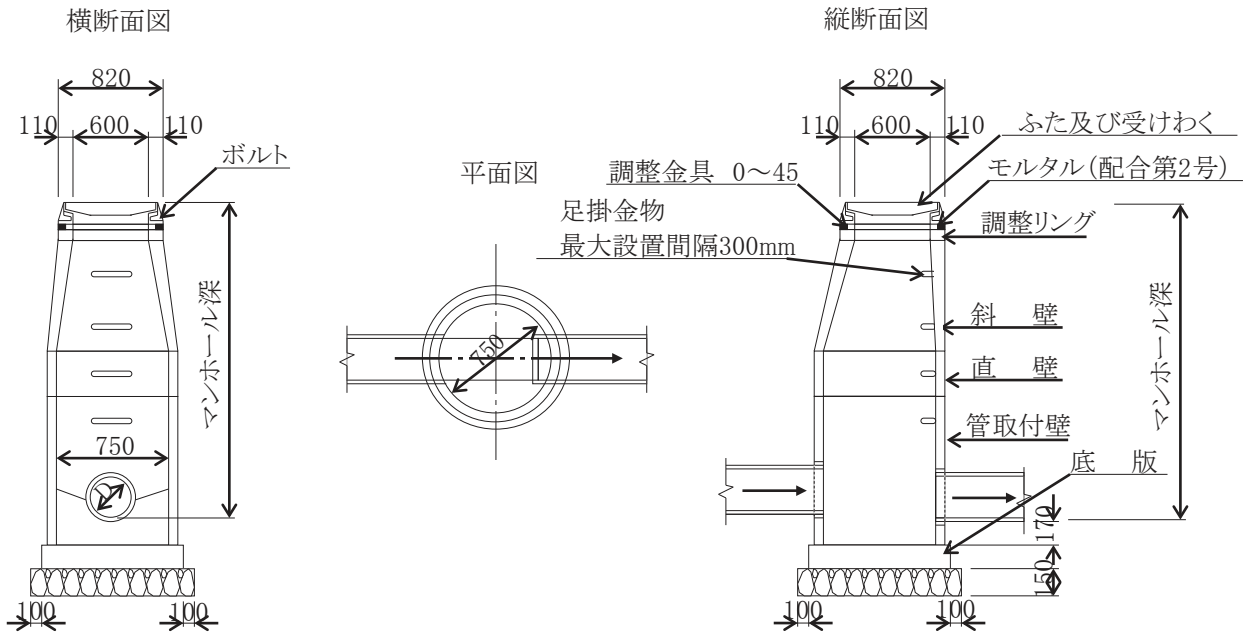
マンホール種別	偏心量(a)
0号マンホール	40mm
1号マンホール	115mm
2号マンホール	245mm
3号マンホール	415mm

寸法表(mm)

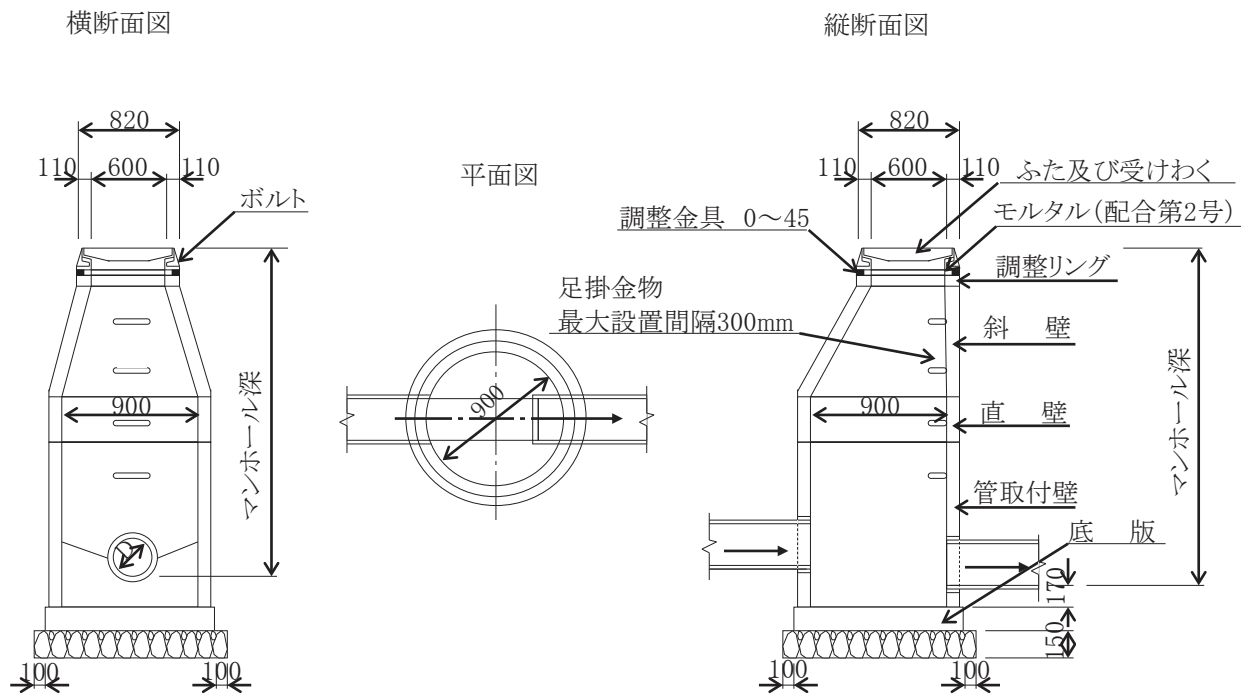
内径 D	X	B
1,350	1,600	1,600
1,500	1,800	1,800
1,650	1,950	1,950
1,800	2,150	2,150

マンホール標準図 (その2)

組立0号マンホール

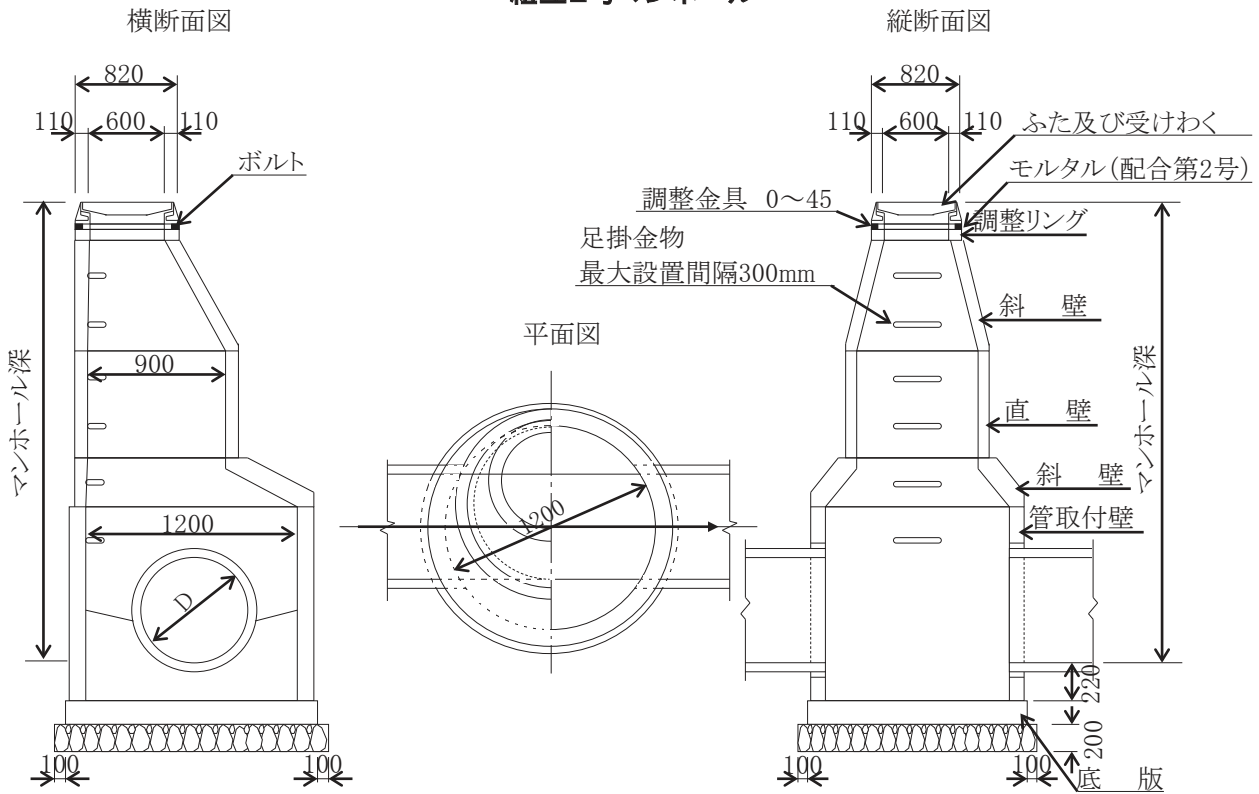


組立1号マンホール

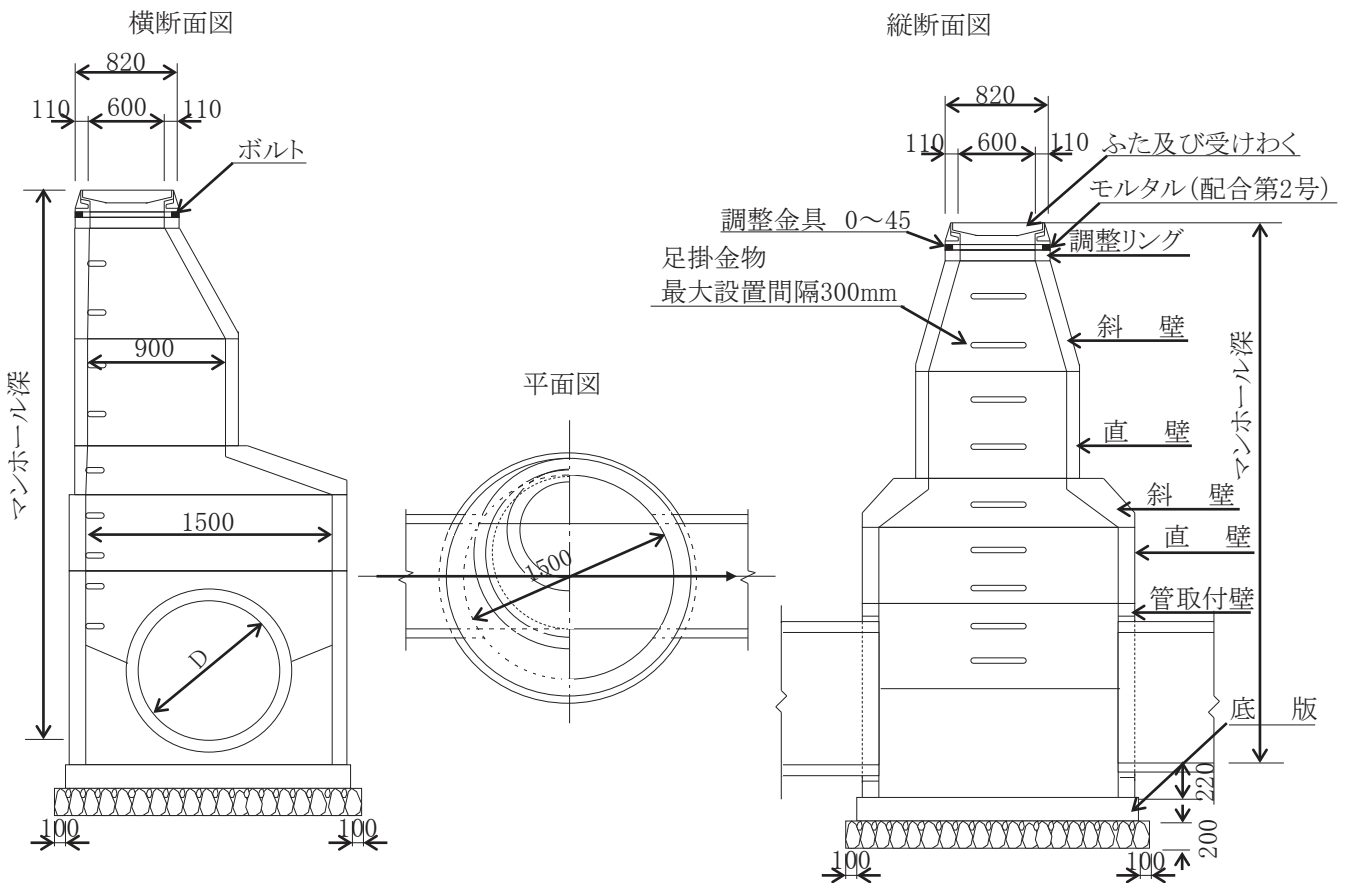


マンホール標準図 (その3)

組立2号マンホール



組立3号マンホール



6 組立マンホール部材組合せ表

組立マンホール部材組合せ表

0号マンホール							1号マンホール								
マンホール深さ (m)	底版	管取付壁	直壁	斜壁		調整リング 50~150mm	調整金具 0~45mm	マンホール深さ (m)	底版	管取付壁	直壁	斜壁		調整リング 50~150mm	調整金具 0~45mm
				450	600							450	600		
1.04 ~ 1.18	○	現場条件に合わせて、 組合せるものとする。		○		○	○	1.04 ~ 1.18	○	現場条件に合わせて、 組合せるものとする。		○		○	○
1.19 ~ 1.33	○			○	○	○	○	1.19 ~ 1.33	○			○	○	○	○
1.34 ~ 1.48	○			○	○	○	○	1.34 ~ 1.48	○			○	○	○	○
1.49 ~ 1.63	○			○	○	○	○	1.49 ~ 1.63	○			○	○	○	○
1.64 ~ 1.78	○			○	○	○	○	1.64 ~ 1.78	○			○	○	○	○
1.79 ~ 1.93	○			○	○	○	○	1.79 ~ 1.93	○			○	○	○	○
1.94 ~ 2.08	○			○	○	○	○	1.94 ~ 2.08	○			○	○	○	○
2.09 ~ 2.23	○			○	○	○	○	2.09 ~ 2.23	○			○	○	○	○
2.24 ~ 2.38	○			○	○	○	○	2.24 ~ 2.38	○			○	○	○	○
2.39 ~ 2.53	○			○	○	○	○	2.39 ~ 2.53	○			○	○	○	○
								2.54 ~ 2.68	○			○	○	○	○
						2.69 ~ 2.83	○	○	○	○	○				
						2.84 ~ 2.98	○	○	○	○	○				
						2.99 ~ 3.13	○	○	○	○	○				
						3.14 ~ 3.28	○	○	○	○	○				
						3.29 ~ 3.43	○	○	○	○	○				
						3.44 ~ 3.58	○	○	○	○	○				

2号マンホール							3号マンホール										
マンホール深さ (m)	底版	管取付壁	斜壁 300	直壁	斜壁		調整リング 50~150mm	調整金具 0~45mm	マンホール深さ (m)	底版	管取付壁	斜壁 300	直壁	斜壁		調整リング 50~150mm	調整金具 0~45mm
					450	600								450	600		
2.04 ~ 2.18	○	現場条件に合わせて、 組合せるものとする。	○			○	○	○	2.49 ~ 2.63	○	現場条件に合わせて、 組合せるものとする。	○		○		○	○
2.19 ~ 2.33	○				○	○	○	○	2.64 ~ 2.78	○				○	○	○	
2.34 ~ 2.48	○				○	○	○	○	2.79 ~ 2.93	○				○	○	○	
2.49 ~ 2.63	○				○	○	○	○	2.94 ~ 3.08	○				○	○	○	
2.64 ~ 2.78	○				○	○	○	○	3.09 ~ 3.23	○				○	○	○	
2.79 ~ 2.93	○				○	○	○	○	3.24 ~ 3.38	○				○	○	○	
2.94 ~ 3.08	○				○	○	○	○	3.39 ~ 3.53	○				○	○	○	
3.09 ~ 3.23	○				○	○	○	○	3.54 ~ 3.68	○				○	○	○	
3.24 ~ 3.38	○				○	○	○	○	3.69 ~ 3.83	○				○	○	○	
3.39 ~ 3.53	○				○	○	○	○	3.84 ~ 3.98	○				○	○	○	
3.54 ~ 3.68	○				○	○	○	○	3.99 ~ 4.13	○				○	○	○	
3.69 ~ 3.83	○				○	○	○	○	4.14 ~ 4.28	○				○	○	○	
3.84 ~ 3.98	○				○	○	○	○	4.29 ~ 4.43	○				○	○	○	
3.99 ~ 4.13	○				○	○	○	○	4.44 ~ 4.58	○				○	○	○	
4.14 ~ 4.28	○				○	○	○	○	4.59 ~ 4.73	○				○	○	○	
4.29 ~ 4.43	○				○	○	○	○	4.74 ~ 4.88	○				○	○	○	
4.44 ~ 4.58	○				○	○	○	○	4.89 ~ 5.03	○				○	○	○	
4.59 ~ 4.73	○				○	○	○	○	5.04 ~ 5.18	○				○	○	○	
4.74 ~ 4.88	○				○	○	○	○	5.19 ~ 5.33	○				○	○	○	
4.89 ~ 5.03	○				○	○	○	○	5.34 ~ 5.48	○				○	○	○	
5.04 ~ 5.18	○				○	○	○	○	5.49 ~ 5.63	○				○	○	○	
5.19 ~ 5.33	○	○	○	○	○	5.64 ~ 5.78	○	○	○	○							
5.34 ~ 5.48	○	○	○	○	○	5.79 ~ 5.93	○	○	○	○							
5.49 ~ 5.63	○	○	○	○	○	5.94 ~ 6.08	○	○	○	○							
5.64 ~ 5.78	○	○	○	○	○	6.09 ~ 6.23	○	○	○	○							
5.79 ~ 5.93	○	○	○	○	○	6.24 ~ 6.38	○	○	○	○							
						6.39 ~ 6.53	○	○	○	○							
						6.54 ~ 6.68	○	○	○	○							
						6.69 ~ 6.83	○	○	○	○							
						6.84 ~ 6.98	○	○	○	○							

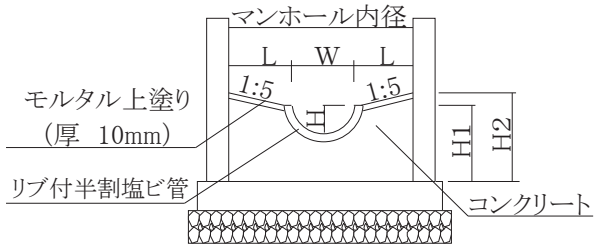
(注) 上表に基づき、マンホールの組合せを決定するものとする。

7 組立マンホールインバート標準図

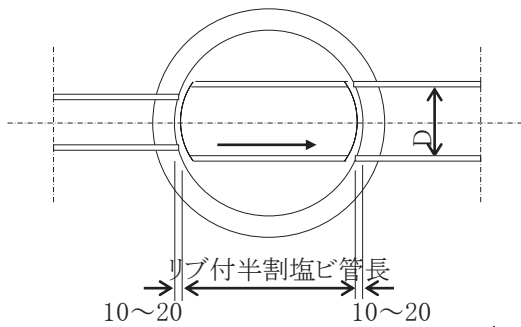
組立マンホールインバート標準図

インバート (直)

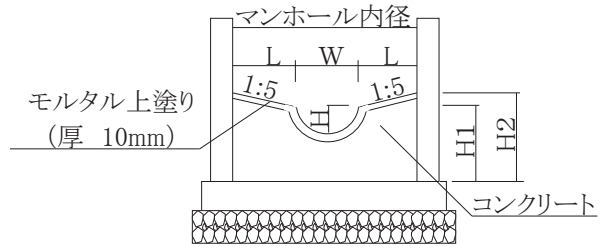
D=450mm以下
(リブ付半割塩ビ管)
断面図



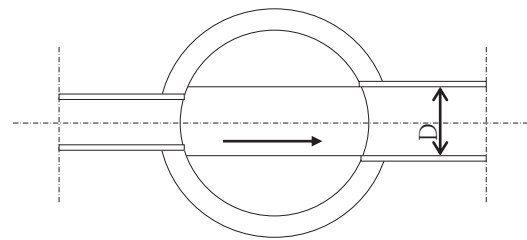
平面図



D=500mm以上
(場所打ち)
断面図

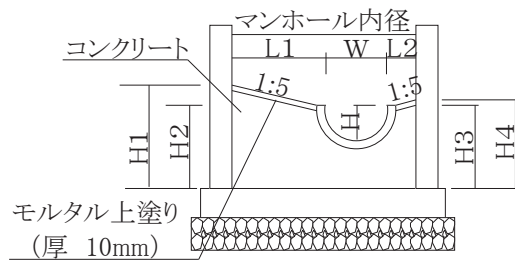


平面図

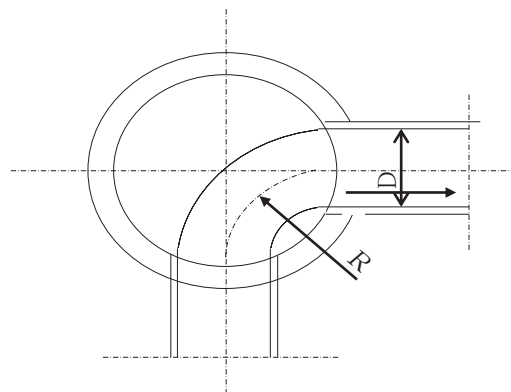


インバート (曲)

D=200mm以上800mm以下
(場所打ち)
断面図



平面図



8 組立マンホールインバート材料表

組立マンホールインバート材料表

インバート（直）

種別	管径 D	断面寸法(mm)					数量(m3)		リブ付半割塩ビ管	
		W	L	H	H1	H2	コンクリート	モルタル (配合第2号)	直 (本)	長さ (mm)
0号	200	200	275	100	270	320	0.109	0.003	1	730
	250	250	250	125	295	340	0.112	0.003	1	730
	300	300	225	150	320	359	0.114	0.002	1	730
	350	350	200	175	345	379	0.115	0.002	1	730
	400	400	175	200	370	398	0.115	0.002	1	730
	450	450	150	225	395	417	0.114	0.001	1	710
1号	400	400	250	200	370	413	0.178	0.003	1	880
	450	450	225	225	395	432	0.178	0.002	1	880
	500	500	200	250	420	460	0.176	0.009	—	—
	600	600	150	300	470	500	0.172	0.009	—	—
2号	500	500	350	250	470	540	0.408	0.015	—	—
	600	600	300	300	520	580	0.414	0.015	—	—
	700	700	250	350	570	620	0.413	0.016	—	—
	800	800	200	400	620	660	0.406	0.017	—	—
	900	900	150	450	670	700	0.395	0.017	—	—
3号	700	700	400	350	570	650	0.714	0.024	—	—
	800	800	350	400	620	690	0.718	0.024	—	—
	900	900	300	450	670	730	0.714	0.025	—	—
	1000	995	252	450	670	720	0.673	0.024	—	—
	1100	1082	209	450	670	712	0.736	0.024	—	—
	1200	1162	169	450	670	704	0.789	0.023	—	—

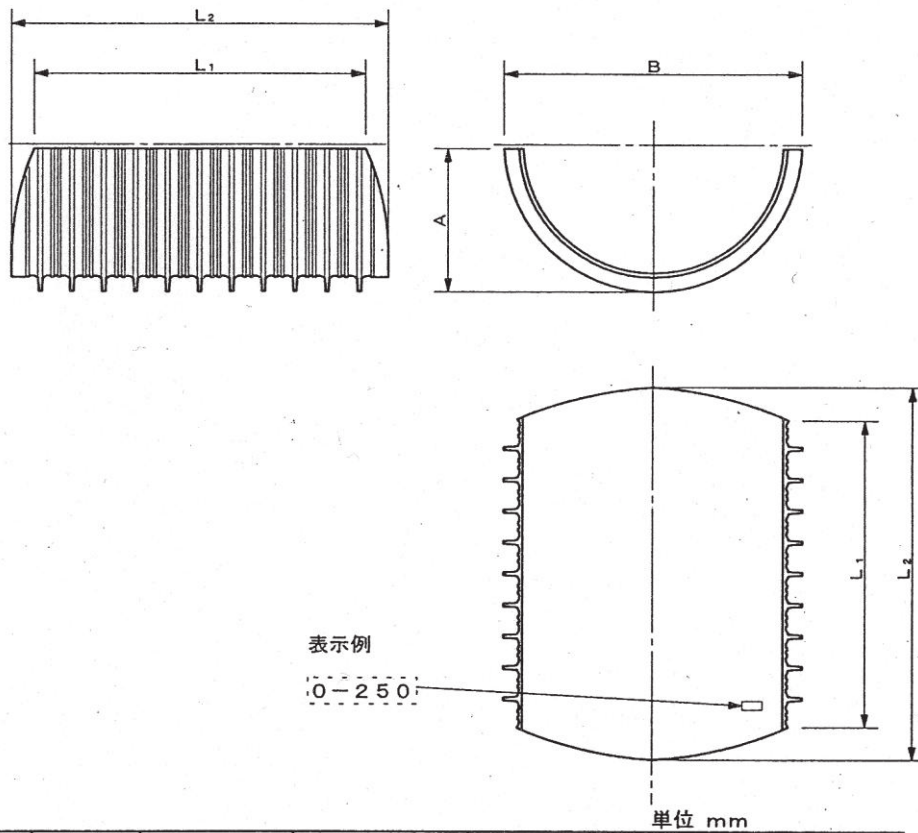
- (注) 1. インバートの勾配は下流側勾配とする。
 2. D=200～450mmについては、リブ付半割塩ビ管を使用、D=500～1200mmについては、モルタル上塗り(厚10mm)による仕上げとする。
 3. 組立1号マンホールにおいて、D=300mmを使用する場合は、リブ付半割塩ビ管(L=730mm)を使用しモルタル仕上げとすることができる。

インバート（曲）

種別	管径 D	断面寸法(mm)									数量(m3)	
		R	W	L1	L2	H	H1	H2	H3	H4	コンクリート	モルタル (配合第2号)
0号	200	361	200	425	125	100	350	270	270	290	0.115	0.003
	250	354	250	396	104	125	369	295	295	311	0.120	0.003
	300	344	300	367	83	150	388	320	320	331	0.125	0.003
	350	332	350	337	63	175	412	345	345	358	0.131	0.006
1号	400	403	400	417	83	200	453	370	370	387	0.204	0.008
	450	390	450	386	64	225	472	395	395	408	0.211	0.008
2号	500	545	500	576	124	250	585	470	470	495	0.475	0.014
	600	520	600	515	85	300	623	520	520	537	0.500	0.015
3号	700	663	700	675	125	350	705	570	570	595	0.865	0.023
	800	634	800	613	87	400	743	620	620	637	0.908	0.023

- (注) 1. インバートの勾配は下流側勾配とする。
 2. インバートについては、モルタル上塗り(厚10mm)による仕上げとする。

組立マンホール用
リブ付インバート継手



該当品	呼び径	L ₁	L ₂	A	B	人孔
	200	700 ⁺⁰ ₋₅	730 ⁺⁰ ₋₅	111±3	228±3	0号 (内径750)
	250	670 ⁺⁰ ₋₅		140±3	286±3	
	300	640 ⁺⁰ ₋₅		168±3	343±3	
	350	610 ⁺⁰ ₋₅		197±3	400±5	
	400	550 ⁺⁰ ₋₅		221±3	448±5	
	450	490 ⁺⁰ ₋₅	710 ⁺⁰ ₋₅	248±3	502±5	1号 (内径900)
	400	730 ⁺⁰ ₋₅	880 ⁺⁰ ₋₅	221±3	448±5	
	450	710 ⁺⁰ ₋₅		248±3	502±5	

- 備考 1. 使用原管は、下水道用リブ付硬質塩化ビニル管(JSWAS K-13 規格品) とする。
 2. 端面(全周)は、糸面取りとする。
 3. 許容差のない寸法は、参考値とする。
 4. 表示は黒色のゴム印とし 人孔-呼び径 とする。

インバート参考図 (平面線形)

$D1 < D2 < D3$

